

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号 (0190100958), 法人名 (株式会社 創生所業団), 事業所名 (グッドケア・大通東 (つばき館)), 所在地 (札幌市中央区大通東6丁目12-21), 自己評価作成日 (令和 4年2月10日), 評価結果市町村受理日 (令和 4年 5月 11日)

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL (https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0190100958-00&ServiceCd=320&Type=search)

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 columns: 評価機関名 (特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ), 所在地 (札幌市北区麻生町3丁目5の5 芝生のアパートSK103), 訪問調査日 (令和4年3月11日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・入居者様の個々の能力に応じ、できる力を発揮できる機会を設けている。
・「手伝うよ」「何かしますか?」との言葉を引出し「ありがとう」の言葉を伝えるやりとりを大事にしている。
(十分にできなくてもやろうとする気持ちや感謝の気持ちを伝える事を大事にしている)
・一緒に笑うことを大切にしている。
・季節ごとに装飾をし季節感を感じていただく。又外出行事を行い家族様と入居者様の思い出作りを大事にしている。(現在コロナの為、外出行事は中止)
・地域に知っていただくように回覧板を参考に地域活動への参加をしている(コロナの為現在は参加できず)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は札幌市営地下鉄バスセンター前より徒歩3分程に位置し、周辺は複合商業施設や教会、小学校、大通り公園があり利便性や生活環境に恵まれている。運営法人は九州福岡に本部を置き福祉事業を全国展開し札幌市内に30の福祉拠点を有し多くの事業所に運営や介護のノウハウを提供している。事業所は鉄筋3階建て3ユニットのグループホームであり、共用空間は清潔で換気は24時間自動で行われている。地域は町内会がなくなっており、以前のような地域住民との交流が難しくなっている。道を挟んで教会がありバザーの開催や教会の合唱団の慰問等の交流は継続している。近隣にある大通り公園や商用施設のファクトリー、動物園、花見、紅葉などの外出支援を行っていたが、コロナ終息後には再開を予定している。家族には毎月写真を中心にしたユニット通信と個別の便りを送って日常の様子を伝え安心に繋がっている。介護経験が5年以上の職員が8割以上従事し、丁寧で安定したケアを実践しアンケートでは家族からの信頼や感謝の言葉が添えてある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 評価結果 (○/○). Rows 56-62 describe various service outcomes like user satisfaction, staff interaction, and safety.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念にあるように、おひとりお一人の生活歴に配慮し、個々の役割を持って頂く事で、その方らしく生活できるよう配慮している。	開設時に職員が作成した介護と地域密着を表記した事業所理念と法人の運営方針「心得」を事業所の壁に掲示し、職員は、研修会やユニット会議等で理念を理解し、利用者のサービスに反映させている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	お天気の良い日には、極力外に出る機会を設け、中には動物や子供などを通じ話をする方もいる。近くにスーパーが出来た為、買い物に出かけ店員さんとの交流もある。	数年前に町内会が無くなり連合町内会となった為、町内会員としての引継ぎは行われていない。幹線道路を挟んだ教会の敷地内でバザーや弁当の提供、合唱の慰問をうけた交流関係を継続していたが、コロナ禍で中止となった。地域住民が年10回程度見学に訪れる等、地域交流を継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前は、運営推進会議を開き、勉強会の機会を設けていたが、現在は、コロナ過のため面会禁止となり紙面にて状況など報告している。ホーム見学など近隣の方の見学も受けている。(コロナの為)状況に応じ)		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	報告は随時行っており、希望が出れば、添える様努力している。	書面会議として年6回開催している。入居状況や行事、ヒヤリハット、感染症対策、避難訓練実施内容等を議事録にまとめ、運営推進会議参加者に送付して助言や要望を得て運営に反映させている。	地域との交流は町内会ではなく連合町内会となっている。民生委員は連合町内会で任命しているため、今後の福祉に関する情報交換や運営推進会議に出席してもらう事を期待する。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	密にまでとはいかないが、必要に応じて相談するなどしている。	行政担当者とは、空き室情報や介護保険での申請、継続手続き等を電話やFAX、メールで密に連絡を取り合っている。中央区グループホーム連絡者会議の開催はないが交流は継続するようにしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯の関係上、自動ドアの開閉には制限があるが、安全性を配慮しながら、フローアを跨いで自由に行き来が出来るようになっており、スピーチロックも含め動作・行動制限をしないよう努めている。	3ヶ月毎に母体法人担当者、各拠点の管理者が出席し「身体拘束廃止委員会」を開催している。毎月研修会を開き身体拘束の弊害について学びケアに反映させている。転倒予防としてL字バー、家族の了解を得てセンサー(人感、フロアマット)を使用している。玄関施錠はオートロックとし外出や各階移動には職員が同行している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設置し、委員会主導で年に数回、全体会議において研修会を開き虐待の防止に努めている。日々の観察や入浴の際、皮膚状態を観察し、情報を共有しスタッフ同士が対応について話あえる環境づくりをしている。		

グッドケア・大通東（つばき館）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎月研修会を実施している。すでに、利用している入居者様もおられるが、必要であれば、市町村担当者や、医師、ソーシャルワーカーなどに助言を受けながら活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安や疑問は極力解消するために、専門用語などは使わず、十分な説明を随時実施している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱は設置しているが、ご家族面会時には随時聴き取るよう心がけている。入居者様の声は可能な限り実現するよう配慮している。	利用者の意見や要望は日常の関わり中からくみ取り、家族からは面会時や電話連絡時等に出してもらい、それらを事業所で検討し事業運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	聴き取りの機会は随時設けている。またユニット会議や全体会議で意見の反映を行っている。	管理者は会議や日常の中でいつでも意見や要望等を聴けるような環境を作っている。年2回人事考課を行っているが、面談で職員の要望を聞き取り上司、本部へ届くようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境の理由で退職者が出ないように本人と相談のうえ、ユニット異動や希望の職場（有料老人ホームやサ高住・居宅サービス）への異動の支援をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月内部研修を行い、スキルアップを図っている。また、コロナ渦でなければ、外部の研修へも希望をとって受けられるようにしていた。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	実習生の受け入れや外部研修参加など。又、各事業所から選出された実務者レベル研修など行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の話をよく聞き、時に付き添い、じっくり話を聞きながら、性格や生活歴を加味し、物の言いやすい、安心できる環境作りに努めている。また、ご家族からもお話を聞き、どんな小さなことでも情報としていただくようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	前もっての見学を受け入れており、契約の際は、ご家族の安心がどこにあるのか探り、話しやすい環境作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームがそもそもどういうもので、他、どういうサービスがあるのか、わからない方も多いため、そこを含め説明し、要望などを伺っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人が出来ないことをお手伝いする一方で、出来る事を見つけ、行ってもらう事でやりがいや生きがいにつなげてもらえるよう努め、馴染みの関係ができる様、昔話などの会話をしながらご本人のできる作業などを通じて人生の先輩として、職員の知らない知識をいただいている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	状況が許せば自由に面会に来ていただき、職員ともコミュニケーションを取りながら、何事も相談し、不調時や受診時、また行事などに関しても、できる範囲でのご協力を仰いでいる。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	居室内にはご家族の写真を見えるところに貼り、面会だけでなく、手紙や電話などの機会も継続できるよう支援している。	コロナ禍により面会や外出の制限はあるが、まん延防止解除などがあった場合は利用者家族には事業所で出来る範囲で要望に沿うよう配慮している。状況に応じて帰宅願望にも配慮している。利用者の散髪は1～2ヶ月に1回訪問理容を利用している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事や家事作業、体操など複数人グループで行う事や職員が日常会話に参加するなどして、入居者様同士が関わり合いや自発的に助け合う場面が見られ、危険がない限り見守り、時に助言し、他者への興味が失われないよう橋渡しを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	運営推進会議や行事参加の案内を送付し、状況に応じて、困りごとなどについてはアドバイスするよう努めている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家に帰りたいという方が多いため、極力ここでの生活に不自由さを感じることがないように工夫し、時には家に帰る為に必要なこともアドバイスするなどしている。	日常の関わりから新たに気付いたものは家族に確認し、介護記録に記録してユニット会議で職員全員で情報を共有しケアに反映させている。意思疎通が困難ときは動作、表情などから職員間で推察するように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前は、ご家族から可能な限りの情報収集に努め、入居後は、ご本人に昔の話などを聞くなどし常に情報収集に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日、その時の状況に見合った過ごし方ができる様、また、できる事は手伝ってもらったり、今何がどこまでできるのかの把握に努めている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要の関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	情報収集を日々行い、ご家族・スタッフからも聞き取りをしつつ計画書に生かしている。	職員の意見、介護記録、主治医、看護師、利用者や家族の意向を反映させた短期6か月、長期1年の介護計画書を作成し家族に説明し同意を得ている。モニタリングは担当者と職員が行い月1度の会議で周知させ状況変化時には新たに計画書を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	関係ないと思う小さなことでも、記録や連絡ノートに書くなどし、情報共有に努めている。すぐにできそうな事は、試すようにし、だめなら手法を変える。結果、計画に位置付けているものもある。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	できないことより、まず、可能な限りのできることを考えるようにしている。やってみてだめなら変える努力をし、状況に応じてスタッフの勤務時間も変えて対応している。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人にも危険がある事を口頭で伝達し意識を持って頂きつつ、状況に応じ、買い物に出る、散歩に出る、お茶を飲みに出かけるなど楽しみを持ってよう支援している。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様の情報を三者が共有しつつ、互いに相談しながら、必要かつ適切な医療が受けられるようにしている。	従来のかかりつけ医は利用者本意とし、協力医は2週毎の往診と歯科医は月1～2回往診と治療、看護師は毎週バイタルチェック等で利用者の健康管理を行っている。専門医の受診は家族が同行している。薬は薬局で利用者の状況に合わせて一包、分包化している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週月曜日に訪問看護師が来ており、1週間の様子や相談内容を書面で渡し、医学的見地から入居者様の気になったこと、その時の状態に応じて、どの様に見ていくのかアドバイスをうけている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	必要時には病棟看護師やソーシャルワーカーと情報交換や相談し、退院前に面会やカンファレンスに参加するなどしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療機関と連携し、ご家族やご本人の希望に沿った終末期を迎えられるよう、チームでも情報を共有し、目標を立てながら実践していく。	契約時に書面で「重度化した場合における指針」を口頭で説明し利用者や家族の同意を得ている。重度化の判断は主治医が行い家族と話し合い主治医の指導を受けケアに反映させている。家族から看取り要望があるときは新たに契約を結び主治医の指導に従い看取りケアに努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1回は研修を行い、必要に応じ、手順について話をしたり、マニュアルを作成し目を通すようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議で町内会・ご家族様から情報を得て、避難マップを準備し、災害を想定したの訓練や話し合いを実施している。	夜間想定など火災避難訓練を年2回実践し、運営推進会議で報告している。状況に応じ自然災害を組み込むことがあり、水害や地震のマニュアルを整備している。およそ3日分の飲料水、食料品を備蓄しカセットコンロ、ランタンを備え冬季用にポータブルストーブを購入している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に安心・納得できるような言葉かけや対応を心がけている。	プライバシーや個人情報は利用契約で説明し同意を得ている。職員は研修で学び、利用者のプライバシーを確保し気持ちに寄り添った対応をしている。語調や言葉使いなど不適切な言葉は使わないケアを実践している。重要な書類は事務所に適切に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフの勝手な思いを押し付けず、何がしか自身で選択できる様な言葉かけを、その時々で実施している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	天気の良い日は気分転換に散歩へ出かけた後、外に出られない時はほかの階に行ってみたり、やりたくない様子が見られる時は、別のやれることに変更するなど、極力希望に沿えるよう配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の好みを十分理解し、衣類などは一緒に選ぶなどの配慮もしている。		

グッドケア・大通東（つばき館）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力や心身の状態、メニューに応じ、盛り付けや切る作業、焼く・炒める作業、洗い物など、できる事を分担しながら毎日実践している。	利用者の能力に合わせ、料理の盛り付けや後片付けなど調理参加している。メニューは本部の栄養士が決め、食材は業者が納入し、職員が湯煎などの調理をしパン食にも対応している。誕生日はケーキを出したり、イベントや季節毎の行事には出前などで食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	飲食は時間に囚われず、好みを把握しながら勧める努力をしている。盛り付け時に、妥当かどうか本人にも確認したり、事前に量調整、補食、また、形状・形態の工夫を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科を利用している他、3食後の口腔ケアを実施している。歯間ブラシなど細かいところは必要に応じて、お手伝いをさせていただいている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要に応じて定時誘導したり、普段から排泄表を使用しパターンを把握する工夫をしている。また、場所がわからない方のために「トイレ」と張り紙をトイレの位置がわかりやすいようにしている。	利用者個々の排泄パターンをチェック表で把握し、さりげない促しや言葉かけを行わない支援を行なっている。失禁時には清拭での対応をしている。リハビリパンツやバット等、状態に合わせた排泄用品で対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分、運動による自然排泄に努めているが、便秘時にはお薬使用しての排泄の取組みを行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	最低限週2回は入れる様、基本の曜日は決めてはいるが、時間を決めてもらったり、入りたい時には入れる様、入りたくない時は時間や曜日をずらすなどの工夫している。	入浴は週2回を基本を目途とし、入浴時間などは利用者本位とし状況に応じて2人介助や同姓介助など要望に沿うように配慮している。足拭きマットは都度交換している。入浴剤を使い、湯船のお湯はかけ流しで常に補充している。利用者の希望によりシャワー浴など要望に沿うようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間安眠できる様、日中の活動量に注意しながら、時に休息を促すなどの配慮をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が変更された際には特に注意を払っており、時に調べて、連絡ノートに副作用について記載している。また、セット間違いのないように工夫している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	気分転換になるような作業（本人好みのパズルや歌留多も含め）の提供や買い物（コロナ過になる前は外食も）、また、チラシを見て食べたいと言っていたおやつを買いに行くなどしている。		

グッドケア・大通東（つばき館）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望などは記録に残すようにし、ご家族とも共有しながら実現できる様努めている。すぐ対応できそうな場所については、状況が許す限り、行けるよう支援している。	コロナ禍により面会自粛や外出制限したり制限解除がある中、日課の近隣散歩や外出なども出来ない為、テラスを利用した外気浴をしている。室内で過ごすため室内行事や体操、状況に応じ階段を使用して歩行能力を改善している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	だんだんできなくなってきているが、希望に応じて、買い物に行き、自身で支払する機会を設けている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じ、随時対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた飾り付けをしたり、窓を開けるなど入居者様に合わせた温度調節を行い、居心地のよい空間づくりに配慮している。特に音や明かりは気を配っている。	居間兼食堂には利用者が寛ぐことができるよう、ソファや椅子が置かれている。広い空間を利用して体操や合唱、紙細工、カラオケ、ケーキ作りなど各種イベントに活用している。24時間自動換気装置を開設時より使用し、暖房は電気パネルとエアコンで調整している。壁には行事写真や季節毎の飾付を掲示し、利用者は好みの場所で穏やかに過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓テーブルを分けたり、ソファ、テレビの置く位置など配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には少しでも安心できる様、馴染みの家具や好みの衣類の持参を依頼している。	居室には電気暖房パネルやクローゼットが備え付けられ、利用者は使い慣れたベッドや整理タンス、椅子などを持ち込み、壁には家族の写真や作品を飾って居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一部張り紙はしているが、トイレや台所、洗面所などの場所がわかりやすく、手すりも見やすいよう設置している。		